

第3回 軽井沢22世紀風土フォーラム基本会議

【日 時】 平成28年9月9日（金） 14:00～16:00

【場 所】 軽井沢発地市庭 イベントスペース

【出席者】 基本会議委員：朝比奈一郎委員、石坂洋二委員、鈴木幹一委員、
須永久委員、西山紀子委員、横島庄治会長、
志立正嗣委員、島崎アイコ委員、貫名礼恵委員、
青木健太郎委員、内堀英希委員、遠藤寛士委員、
児玉大輔委員

内 容

1. 開 会

2. 会長あいさつ

- ・ 軽井沢130年の歴史は、成功裏に推移したまちづくりの歴史だといえる。しかし、これから先いかに健康優良児の軽井沢といえども問題が起きることを想定し、ある種の健康診断をしていく時期と捉えた時、検討していく組織として風土フォーラムが存在すると考えると見方が変わる。
- ・ 軽井沢は、極めて高い志の集団であると同時に好奇心旺盛な集団である。志と好奇心のパッチワーク作品として軽井沢はうまく作られているが、このパッチワークの縫い合わせ部分には、必ずズレやほつれが起これり手を入れなければいけない。方法論として1つは情報に対しての考え方を整理することが大切。まちづくりへの情報収集能力を高めるだけでなく、誰と共有するかを考え、実用化の手法に辿り着けるかということが

テーマとなる。

- ・ 2つ目のプロジェクトチームについて、今回2つの提案が出ているので、どのように取り扱うか議論を深めてほしい。

3. 議 事

(1) プロジェクトチームについて

○「軽井沢駅北ロステーションフロント構想プロジェクトチーム」について
プロジェクトチームに参加している委員より近況報告がある。

○2つ目のプロジェクトチームについて

①スポーツを通じた QOL (Quality of Life) 向上プロジェクトの提案

- ・ スポーツを通しての豊かなクオリティオブライフの実現と軽井沢町のより高品位なイメージングのためのプロジェクトを産・官・学・民が一体となって推進していく。

【意見交換】

A委員

このテーマは、プロジェクトチームか基本会議で進めていくべき重要なテーマだと思う。亡くなるまでの10年をいかに健康で過ごせるのかという健康寿命を延ばすことに国、県も取り組み始めている。国、県の力も借りてこのプロジェクトを推進していくべきだと思う。

B委員

健康は人の源であるので、QOL 向上プログラムは実現できるとよい。また、スポーツを通して健康に生きる、自然に関わるということは人が幸せに生きる大切な要素である。ランドデザインを考える上でも、文化、歴史、自然科学という分野を研究し、それを住民に公開して一緒に楽しんでいける場として色々な軸が作れる可能性を感じた。

C委員

2020年問題はこれから爆発的に広がる。国のスポーツ政策は、大きなテーマになるのでその時立ち遅れないようにすることも、提案者の

案には含まれている。

D委員

軽井沢が築いてきたシビックプライド（個人が都市に抱く誇りや愛着のこと）としての未来の軽井沢の色を考えることは重要なテーマである。その中でスポーツ、健康を切り口にするのは大きな可能性を感じる。プロジェクトとした時にどこまでを視野に入れるかが重要である。

スマートウェルネスシティー構想は、スポーツ、健康において様々な施策が考えられる。

スポーツにおいて企業を盛り上げるには、国、県を巻き込むことが大切である。

E委員

スポーツには無限の可能性がある。グラウンドデザインの50年、100年後に青少年を育成していくことにも役立つし、オリンピックの合宿誘致で経済的にも踏み込める可能性がかなり大きい。プロジェクトとして動くには負荷が大きいので、細かく細分化してプロジェクトを作る方がよい。

F委員

スポーツはITにも深く関係している。不健康だが病気ではないグレーゾーンの人たちも重要な層であり、軽井沢を訪れると体と心の健康を取り戻せるといえるよう具体的な策に繋げるべき。

C委員

スポーツウェルネスだけでプロジェクトチームを立ち上げるにはサイズが大きすぎると感じている。例えばオリンピックの特定種目に絞った合宿誘致などの具体的なテーマに絞る方法もある。

B委員

軽井沢では毎年マラソン大会を実施しているし、ジョギング、ウォーキングを楽しむ方が多いが、せつかく緑の多い軽井沢でジョギングやウォーキングを楽しもうとしても、マラソン大会のような時以外は、自動車と隣り合わせの危険な状況である。車とすれ違いのないコース

作りをプロジェクトで考えてもよいと思う。

G委員

世界的、全国的なスポーツイベントを軽井沢に誘致して盛り上げるのか、軽井沢を訪れる人々の健康プログラムに対してスポーツを提供するのかを決めてチームを作ると面白い。

C委員

軽井沢のスポーツは夏、冬どちらなのか。それにより考えは変わる。

H委員

スポーツの三大要素は「見る、する、応援する」であるが、軽井沢のカーリングにはこの要素が揃っている。

I委員

夏の競技から考える方がよい。冬のスポーツであるホッケー、カーリング等は気軽に始めるにはハードルが高いと感じる。夏は、歩く、走るという気軽に始められるものが多く、自然の豊かさを感じながらスポーツができて、住民、別荘所有者の隔たりを感じない。

C委員

この提案は、基本会議全体で扱う程の課題であり、スポーツウェルネスリゾートをもう少し砕き、中項目、小項目でプロジェクトに切り替える手順を踏まないとテーマが大きすぎると感じている。

F委員

スポーツはまちづくりをしていく上でのキーワードになる。スポーツという軸を意識しながら各プロジェクトを行うか、水平的なものを戦略的に大きな絵を描くことをしないと、中項目、小項目に落としても閉じてしまう危惧がある。

会長

会長預かりとして、次回会議までに色々と意見を賜り再度検討する。

②住民向けのイベントを行うワーキングチームを立ち上げることを提案

- ・軽井沢22世紀風土フォーラムの活性化を図るために、住民が主体となった地域経営「風土自治」確立の第一歩として基本会議の委員間でワー

キングチームを立ち上げたい。

50年後、100年後に関わりのある子供をターゲットに活動したい。

【意見交換】

J 委員

色々な人に興味を持ち参画してもらうための働きかけをしたいと考え提案した。

K 委員

経験上のノウハウがある委員の方もいるので、協力を仰ぎながら子供たちを集め実施したい。住民が主体となり何かを始めることに対して、まずは風土フォーラムの浸透度を深める必要があると感じこの提案をした。

L 委員

私も、地域に対する浸透度は薄いと感じている。ランドデザインの理解を得るには、何かを一緒に始めるところから取り組まなければならない。50年、100年先という自分達が存在しているかも分からないことを突き付けられた時に、はたして理解を得られるだろうか。中途半端な仕掛けで何も出来ないという結果は避けたい。

C 委員

失敗を恐れずに実行してみることに意義がある。テクニックよりは志の問題である。

E 委員

青年会議所でもワールドカフェの手法で催しを開催したが集客に苦労した。まずは、話し合いに参加してくれるコミュニティーを作ることが重要である。実際に参加すれば意見は出る。例えば、子供を対象にした職業体験イベントを地元企業、消防、警察などを巻き込んで企画したらどうか。

会長

ネーミングが大事であり、子供たちが魅力を感じる内容と言葉で呼びかけなければいけない。どこの団体と手を組むかも重要になる。実

施していくことにあたり、このプロジェクトに関わる町職員委員4名と基本会議委員2名において、次回までに基本会議に対して具体的な提案をお願いする。設置に関しては了承とする。

(2) 第2回会議以降に寄せられた意見等について
別表の情報提供を行う。

(3) その他

○懇親会についての報告

・基本会議委員より提起された論題について議論した。

▶ グランドデザインに関する基本会議委員の共通認識について

町が発表したグランドデザインを基に、基本会議で議論を重ね、住民を巻き込みながら住民自治を目指していく。

▶ プロジェクトチームの進行と地元意見の反映について

民間のスピードが速いので、地元の意見を受け早々にプロジェクトチームが立ち上がった。ボトムアップ型になっているので、新軽井沢の成功事例を他の地区にも推奨していきたい。

4. 事務連絡

事務局の業務について

5. 閉 会

(別表) 風土フォーラムに寄せられた意見等一覧

番号	内 容
1	町を綺麗にするために、ゴミ拾いイベントを開催してほしい。ポイント制度などを取り入れ、ゲーム感覚でゴミ拾いができるようにしたらどうか。
2	保養地を保護するために、保養地として残すゾーンと、観光地として開発していくゾーンとのエリア分けをする。
3	町の中で、ニホンリスが集まる木や、大事な木について、住民から報告を受けて保護樹木という形をとり、伐採を制限させたらどうか。
4	各地で自転車需要が高まり、自転車道の整備も進み中で、1,000m林道が、木のトンネルで気持ちがいと感じており、試験的に自転車道の整備をしてみてもどうか。
5	町からの植栽指導において、軽井沢に昔からある木を植えるよう指導してほしい。(コニファーなどの外来種が増え、景観が安っぽく感じる。)
6	自然保護対策要綱の精神は「別荘人の軽井沢の自然を愛する想い」と理解している。精神論の部分を分かりやすく伝えることができるようにしてほしい。
7	旧軽銀座通りに植栽し日陰を作った方がよい。道路幅が狭まるが、一方通行にすれば実現できる。新軽井沢、旧軽井沢エリアを中心に、期間限定でも一方通行の通りを増やせば渋滞緩和にもつながるのではないかと。
8	南地区エリアデザインに描かれている植物園移転構想について、移転ではなく、植物の移植を広げ、植物の生息環境を拡大してほしい。
9	外来種が増えているので、地区の自治会などで実施している掃除の機会などに、外来種は徹底して駆除するよう行政から指導してほしい。
10	追分地区は、風情を残すため、歴史を感じさせられるような演出(提灯やのぼり旗など)があってもよいと思う。地区によっては屋外広告物の規制に対し柔軟に対応できるとよいと思う。
11	別荘の増加に伴い自然環境がどんどん壊れていく。条例でさらに厳しく建築エリアなどについての制限をかけてもよいのではないかと。
12	近年、別荘地に年間通して居住する人達が増えた。この人達は、すでに別荘者ではなく在住者であり、その認識を自覚してもらうための意識改革が必要である。例えば消防団などへの参加などでもよい。今後、若い永住者を増やすことが課題と思われる。

番号	内 容
1 3	<p>実験的にボロボロの別荘を買い取り、タダで都会に住む若い夫婦へ貸し出す事業を始めた。(借りたい人間はプレゼンテーションをし、厳選した1組が1年間(最長2年)軽井沢で生活をし、気に入ったら家も買い取れる仕組み。)この取り組みにより、どのような成果が生まれるか分からないが、軽井沢を気に入り、軽井沢に永住してくれるようになれば、町全体の活力になると思う。</p>
1 4	<p>町内には、ファシリテートできる人も多くいるので、そういう人を巻き込み、世代ごとに軽井沢への想いなど意見交換することができる場を設けると盛り上がると思う。</p>
1 5	<p>住民の人達から色々と意見を吸い上げていく中で、ランドデザイン画に手を加えていくというのはどうか。絵が変わると住民もまちづくりに参加しているという感覚がわくと思う。</p>
1 6	<p>個人が処理できなくなった巨木などを、本人の許可を得て町が切るようにしてはどうか。倒木による人身被害や、建物被害防止はもちろん、林業も盛んになるし、動物被害も少なくなる。人間と動物の棲み分けをしっかりとするためにも、間伐は必要。</p>